

平成26年11月20日(木)

老球の細道84号

「すべては失敗、間違いから始まる」

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

シドニー・リングルというイギリスの生理学者は、カルシウムの含有量の多いロンドンの水道水で、カエルの心臓を使って実験をしていた。実際は、助手に命じて蒸留水をつくっておくように言ったのに、助手はどうせ同じ水だからと思い、怠けて蒸留水をつくらず水道水をそのまま使っていた。食塩を血液の中にあるのと同じくらい水道水に加えて、その中にカエルの心臓を入れると、規則正しくよく収縮するので、心臓の収縮には、食塩の適当な量があれば充分である、と考えていた。

ところがある日、助手のごまかしに気づき、カンカンに怒ったリングルは自分で蒸留水を使って同じように食塩を溶かして、カエルの心臓を入れたら、何と止まってしまった。

そこでロンドン市の水道水には何かカエルの心臓を動かすのに必要なものがあるに違いないと考え、水道水の成分を一つ一つ分析して、カルシウムが心臓の収縮になくてはならないことを見つけたのである。

リングルはこれを応用して、食塩水にカルシウムを加えて、いわゆる「リングル液」として、今では医療の分野で広く応用される溶液を作ったのである。これは、点滴にはとても便利で今ではどこの病院でも使われている。

・・・『新カルシウムの驚異』（講談社ブルーバックス）より・・・

この話はリングル液誕生のエピソードとして大変有名な話である。科学的な大発見、大発明というのは、色々な間違い、失敗から創造されていることは歴史が物語る感動的な事実である。かの有名なエジソンも99回失敗、間違いをおかした後たった1回の成功で歴史に残る発明をやり遂げたという。「失敗は成功のもと」「成功は1%のインスピレーションと99%の努力である」はエジソンの有名な言葉として誰でも知っている。

どこのチームも基本練習を重点的に行う。スキルやフットワークを正確にできるようにすると共に、さらに熟練、向上させていく。そして、今までのチームプレーをさらにレベルアップするための材料と土台を作り、ありきたりでなくチームのオリジナリティーなものを創造しようとするだろう。そのためには、練習している基本技術を実戦練習において試行し、アレンジする。それによって、失敗、間違いが必然的に起こってくるのは承知中の承知。しかし、失敗、間違いを避けて、無難にことをすまそうとすれば今までと何ら変わらない結果に陥る。魅力的、刺激的な変貌は絶対に起こらない。

練習コートは間違い、失敗、トライ、チャレンジする神聖な場所である。気の遠くなるような「トライ・エンド・エラー（試行錯誤）」の反復練習のもとで、ある日突然今までできなかったような、または考えもつかなかったようなプレーが成功するようになる。そして、プレーヤーもチームも仮面ライダーに負けない大変身を遂げる。この変化が感動的で、面白すぎるが故にバスケットボールコーチを30年以上やめないでやられていく。もちろんそこまで行くには、高倉健さんではないが何度背中で泣いたことか。

かつてPL学園、巨人軍で栄光を刻んだ野球評論家の桑田真澄さんが言った。「ミスがなくそうと無駄な努力をするよりも、ミスから学ぶことのできる選手の方が成長が早い」（朝日新聞『天声人語』）